



クマは危険 — 医療現場から伝えたいこと

形成外科 宮下 松樹



毎年恒例の「今年の漢字」に、2025年（令和7年）は「熊（くま）」が選ばれました。全国各地でクマの出没や人的被害が相次ぎ、深刻な社会問題となった一年でした。

本来は山林に生息するクマが、人里や住宅地、さらには学校周辺にまで頻繁に出没しました。環境省の統計によると、2025年のクマによる負傷・死亡者数は全国で約230人にのぼり、うち13人が死亡しています。富山県内でも出没件数は1,000件を超え、過去10年で最多となりました。

当院でも過去5年間で約10例のクマ外傷を治療しています。クマ外傷の特徴として、顔面や頭部の重度損傷が非常に多く、被害者の約9割でこれらの部位に深刻な外傷が認められました。野生動物による咬傷は、破傷風など感染症の危険も伴い、外科的処置に加えて精神的ケアを必要とする重症例も少なくありません。

クマ外傷に限らず、野生動物による外傷は決して軽傷ではありません。「少しの傷だから」と自

己判断で受診を控えたり、受診を先送りしたりせず、必ず医療機関を受診してください。

万一口マに遭遇・襲撃された場合、決して立ち向かってはいけません。クマと距離がある場合は、刺激せず、ゆっくり後ずさりすることが基本です。もし飛びかかれた場合には、うつぶせになって体を小さくし、両手で首と顔を守ることが重要です。

個人の努力だけでクマ外傷をゼロにすることは困難です。クマが住宅地や耕作地に入り込まない環境づくりを、地域全体で進めることが不可欠です。そして不幸にもクマ外傷に遭った場合には、ためらわず、できるだけ早く医療機関を受診してください。



防御姿勢：地面にうつ伏せになり、体を丸めることで、頭や首、顔、腹部を守ります。

富山市民病院産後ケア事業について

当院の産後ケア事業は、令和7年4月より富山市の委託を受け、産婦人科病棟で事業を開始しました。「心と体に寄り添い、ゆったりあなたのペース」をモットーに、産後も安心して子育てができるようにサポートを行っています。

産後の母親だけではなく、1歳未満のお子様、さらに父親、パートナーも含め、家族全員を対象としています。



サービス内容は、デイサービス型（日帰り）およびショートステイ型（宿泊型）があり、最大6泊までの利用が可能です。現在までデイ、ショート利用で月平均4～6名の利用があります。

利用目的としては休息が最も多く、ほかに授乳相談やお子様の体重評価、離乳食の相談等があります。多職種と連携しながら迅速に利用準備ができるよう、電子カルテ内共有フォルダーを活用し情報共有を行っています。また、継続的なサポートが必要な利用者に対しては、富山市と連携し、切れ目のない支援を実施しています。

利用者の方からは「久々にゆっくりと横になることができて嬉しかった」「いろいろ悩んでつらいタイミングだったので相談できてよかった」などの声が多く寄せられ、産後の母親、父親共に育児の自信と自立に繋がるようサポートを行っています。

スタッフも利用される方の笑顔や実際聞かれる声を励みに、少しでも安心して過ごしていただけるよう寄り添いながらサポートを行っています。また、産後ケアを経験したスタッフが、未経験のスタッフを指導する体制を整備し、質の高い看護を提供しています。

今後も産婦人科を中心に多職種で連携を図りながら、産後に支援が必要な方や母子とその家族が健やかな育児ができるような支援体制の強化と、選ばれる病院作りに貢献していきたいと思っています。



研修・講演・学習会のご案内

1. 地域連携症例検討会 (ハイブリッド開催)

日 時：2月10日(火) 19:00～20:00 場 所：当院3階 講堂

1) 症例検討

『医療行為に起因したと思われる急性下肢虚血の2例』

血管外科 湖東 慶樹

2) ミニレクチャー

『肺がん治療 最近の動向』

呼吸器内科 寺田 七朗

肺がんの薬物療法は、ここ数年で「個別化医療」が劇的に進歩し、従来の抗癌剤単独の治療から、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬を主軸とした体系へと大きく変化しています。非小細胞肺癌においてはドライバー遺伝子変異に対する分子標的薬が次々と開発されると同時に、分子標的薬に抗がん剤や抗体製剤を併用する治療方法も出てきました。免疫チェックポイント阻害薬は当初は非小細胞肺癌の二次治療に対して単独で使われるのみでしたが、現在は一次治療・放射線治療後・周期・小細胞肺癌へと適応が拡大しています。免疫チェックポイント阻害薬を従来の

殺細胞性抗癌剤や別の免疫薬と組み合わせる治療も一般的になりました。更には、二重抗体製剤や抗体薬物複合体といった新たな薬剤も承認されています。治療方法が増えた分、「副作用への対応」と「治療法の決定」も重要な問題となります。副作用に関しては各科の連携が重要となり、治療法の決定に関しては医療従事者と患者さん、ご家族が協力して意思を決めるシェアード・ディシジョン・メイキングがますます重要となっています。当日は実際の患者さんの診断・治療経過を含めて、肺がん治療の最近の動向についてお話しします。

予告

日 時：3月10日(火) 19:00～20:00 (ハイブリッド開催)

場 所：当院3階 講堂

内 容：①症例検討 1例 (担当) 小児科

②ミニレクチャー 1題 (担当) 外科

2. ダイアベティス研究会 (旧：糖尿病研究会)

日 時：令和8年2月19日(木) 17:30～18:45

場 所：当院3階 講堂

テーマ：足と糖尿病の関係(フットケア)

講 師：家城院長

作：病院ボランティア 篠崎 佳子



令和7年度 地域医療部担当者交流会 (がん患者在宅療養支援事例検討会)を 開催しました

11月20日(木)に「緩和ケア病棟から地域へ～最期まで自分らしく過ごし続けるために～」をテーマに富山市まちなか診療所の渡辺史子先生をお招きし、緩和ケア病棟小泉看護師、島緩和ケア認定看護師とともに、がん患者在宅療養支援事例検討会を開催しました。地域からは、訪問診療医、訪問看護師や介護支援専門員など、院内の参加者を合わせ総勢49名で事例を元にディスカッションを行いました。

比較的安定しているがん患者さんが、緩和ケア病棟

での療養と訪問診療を受けながらの在宅療養を繰り返し、最終的には本人が希望する自宅で最期を迎えられた事例について検討しました。実際に介入された訪問看護師さんやケアマネジャーさんにも参加していただき、それぞれの立場からどのような視点をもって関わり、どのようなことを情報共有したのか意見交換が行われました。また、事例を通して、今後より一層医療と地域との連携を強化するためには、何を大切にしていきたいのかなど新たな知見を得ることができました。

今回の交流会では「医療・福祉・介護」の連携と協働により最期まで自分らしく過ごすことを支えることの意義について改めて理解することができました。次年度も開催予定ですので、皆様のご参加をお待ちしております。



研修医のひとりごと

研修医 森田 真由



まだ研修は数ヶ月残っておりますが、2年間の振り返りをさせていただけたと思います。私は東京の大学で学生生活を過ごしたため、就職を機に高校生以来の富山での生活となりました。幸運なことに研修医の先輩後輩に高校の同級生が複数おり、私の兄が先に研修を始めたため、不安なく研修を始めることができました。研修開始当初は何もかもが分からない状態で上級医の先生、スタッフの皆さん、研修医の先輩方には大変ご迷惑をおかけしました。しかし、そんな自分にも優しく丁寧に指導して下さる皆さんのおかげで、少しずつではありますが成長することが出来たかと思えます。

また、当院の研修プログラムは、選択科目で県外の病院にて研修することが可能です。私もこの制度を利用し、大学病院での研修や、沖縄や飛騨で地域研修を行いました。慣れ親しんだ市民病院から外部へ行く緊張はありましたが、様々な病院で研修したことは自分にとって良い経験となりました。後輩の研修医やこれから入職する学生の方々にも是非この制度を利用させていただきたいと思います。来年度からも北陸に残り、医師として働く予定です。育ててくれた富山の皆様に恩返しが出来よう精進して参りますので、今後ともよろしくお願い致します。

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

2月

科 名	医師名	不 在 日	科 名	医師名	不 在 日
整形外科・ 関節再建外科	堀 井	27日	皮膚科	大 石	6日
	重 本	13日、27日		湖 東	20日
外 科	宮下知	6日、13日、20日	呼吸器・血管外科	土 岐	24日
精 神 科	仲 間	19日	小 児 科	和 田 拓	6日
	水 橋	17日	歯 科 口 腔 外 科	朽 名	16日
形 成 外 科	稲 垣 洸	19日、20日	※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112 (代) 内線2168		

編集後記

冬の訪れを肌で感じる季節となりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。私事です、1月末日に実に10年ぶりにスキーに出かける予定があり、今から胸を躍らせています。今回は職場の同僚夫婦3組が集まり、長野県の栂池スキー場を訪れます。

特に夫は、この日のために新しいスキー板を新調し、準備万端で当日を心待ちにしています。宿泊は少し奮発して素敵なホテルを予約しており、ゲレンデの景色を眺めながらゆっくりと過ごす時間も楽しみです。日常の喧騒を離れ、自然の中でリフレッシュすることの重要性を再認識しています。共通の趣味を通じて深めた絆を胸に、今後も同僚と連携を密にし、より良い医療提供に努めてまいります。

看護部 篠山 留美



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1112 (代) / FAX 076 (422) 1154

メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp

